

第3回富山地区学校再編検討委員会次第

日時 平成21年2月20日 午後7時

場所 富山公民館 2F 講義室

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
 - (1) 幼稚園、小学校の位置について
 - (2) 個別合意事項について
 - (3) 第4回検討委員会の日程について
4. その他
5. 閉会

第3回富山地区学校再編検討会議

平成21年2月20日(金) 午後7時

富山公民館 講義室

記録者 小磯英明・満平恒一

欠席委員 なし

- 1 開会
- 2 挨拶
委員長
教育長 今年度は今日で終了。現状の中で、子ども達にとってより良い策を検討していただきたい。
- 3 議事
事務局 設置要綱第7条第1項の定めにより、委員長が議長となる。
傍聴の申し出があったので、お伺いする。
委員長 許可する。
事務局 (傍聴者入室)
委員長 委員は全員出席であるので、会議は成立する。
前回までの会議内容の確認だが、両幼稚園・小学校の統合については、検討委員会としての賛成合意が得られている。
学校の位置を検討するにあたり、施設に関する意見が多数出ており、継続審議となっている。
それでは、第1号議案「幼稚園および小学校の位置について」を議題とする。事務局より説明を求める。
事務局 前回資料を基に説明
委員長 質問・意見を求める。
委員 議事に入る前に、富山地区区長会としての意見をお伝えしたい。行政連絡員会議で前回の会議報告をしたところ、新しい校舎を建ててほしいという意見だったので報告する。
事務局 学校再建と校舎の新築は切り離して考えていきたい。
委員 文科省に聞いたところ、活断層の有無に限らず、築40年の校舎は建て直しが不可欠という話だった。
委員 新しい学校の要望について、どこかの場所に建てるべきだと思う。
岩井小はけっこうクラックが入っていて、施設改修も大掛かりだと思われる。トラックやバス進入路・駐車場の確保のため、幼稚園脇の道路拡張

なども考えられる。大きな金額を使って修復し、更に将来、また新しい学校を建築するのは、投資が無駄になるのではないか。

新校舎建設まで、平群小を使った方が、財政的効果があるのではないか。

委員 中学保護者の意見として、小中ともに古い校舎ということが心配だという声を聞く。第3期計画で中学を再編する方針。白浜中は建設。富山中がなくなる不安がある。中学の改築も踏まえていただきたい。

委員 今2、3才の子は小学校入学時、また中学入学時と2度の再編が考えられ不安を感じる。

委員 平群小や岩井小での施設の機能面はどうか。

委員 岩井小は、自分が子どもの頃と同じ。トイレが共用、チャイムがない、放送室は倉庫のような部屋。

ワザンバー 小中一貫教育の話が出たが、施設ばかりでなく、これからはその方がいいのか。

委員 中学がなくなると地区の拠り所がなくなるのではないか。部活動ができない人数といったが、地区が広くなるとかえって部活動ができなくなることもある。何を捨て、何を残していくという議論が必要だ。

小中を別にするか、一緒にするかも議論していくほうがよい。

委員 忽戸、七浦の人たちは、千倉中に通うなら抵抗はないが健田小は端にある。地域に学校があって欲しい、今の中学の場所に小中学生が通ったらよいと言っている。校舎の新築と再編を切り離すでは納得できない。基本的ビジョンから話し合いたい。

委員 市内の活断層は岩井から嶺岡にかけて集中している。富山地区に多く、健田地区は少ない。子どもたちのために、安全を抜きにして再編は難しい。

委員 合併のタイムリミットがあるのか。25年後くらいまでは人数があまり変わらない、急ぐ理由はあるのか。

事務局 児童数が、市の人口と合わせて減ってきている。児童減による複式学級が懸念される。児童数の増える見通しが無い中で、全体的な学校再編が必要だと考え、計画推進を図る。

委員 ということは、すぐに再編されるということではないのか。

事務局 10年間を目標に学校再編計画を作っている。第1期、2期で幼稚園、小学校の再編を推進し、第3期で中学を2分の1にする計画。1期3年での再編を目指すものであるが、何が何でも3年のうちに統合を推進するものではない。

委員 統合は既に決定している。校舎が不安だ、立て直そう。どこに建てるか、ワザンバーが財政的にはできるといった。

ワザワザ 中学が統合になった時、この地区に学校が残れるか危機感を持って欲しい。鴨川のように小中一貫でなければ残らない。三芳地区は小中一貫でよいという判断を市としてはしているようだ。小中一貫の要望を出してもよいと思う。

統合で2校を1校にすればお金が浮くだけの施策ではなくて、小中一貫することにより人数が増えるのではないのか。財政的なことを考えているのか。

事務局 北三原と南三原の統合では、1校分の経費が減ったが、スクールバスが必要となり、全体として大きくは減らなかった。そっくり浮くことはないと思定している。

人間形成の意義を考えていきたい。三芳地区は一貫校というよりも、授業カリキュラムを調整し、スムーズな連携を図るよう研究している状況。

将来の推移として、中学校は平成32年に、千倉中以外の6校が1学年1学級の人数になる。中学校の再編は必要と考える。

だが、中学校の再編実施計画はまだできていない。平成26年までに中学校再編実施計画を作り、中学校の再編推進を図るものである。中学校の学級編成は、1学年2学級編成となるよう中学校に再編を推進したい。

委員長 小学校の新築についてすぐに結論を出すことはできないと思われる。

委員 子どもたちが安全で安心できる教育環境が必要。鉄筋コンクリート建物の耐用年数は60年。岩井小、平群小校舎はともに建築後44年から45年経っている。

委員 市立小学校の中でも岩井小が一番古いと思うが市内の学校の状況はどうか。建築年度からすれば富山地区の学校施設の改築がされるべきである。小学校統合をするから改築ではなく、老朽化ということから小学校改築を要望する。しかし、現状の小学校において5、6人の少人数のままでは、児童の教育環境としては望ましくないと思う。再編は3、4年経つことなく、一年でも早く統合を推進して欲しい。

事務局 一番古いのは長尾小。56年経つ。40年近いところはあるが岩井、平群小もRCとしては一番古いところではある。

経過年数が経っている所はなるべく早くとは考えているが、中学の再編と合わせて進める。耐用年数60年が限度とは考えている。

委員 教育長に聞きたい。白浜、千倉は新しい。富山はこのままでよいと考えているか。

教育長 千倉、白浜は、旧町村合併前に調査実施計画がされ新市合併時に引継がされた改築事業を実施している。白浜中学校は雨漏りでどうしようもなく、

生徒の健全な学習環境を整える旧白浜町からの引継ぎである。新市における整備計画はまだできていない。校舎を建てても学校再編はある。

委員 富山中については残すのか。少ないとどうしていけないのか。

教育長 少人数では学習集団ができない。理科の実験、アイデア、もみあう、など知恵を出し合う素地が少なくなると考える。

委員 少ないからこそできることは。

教育長 個々の基礎学習としての読み・書き・計算では、少人数であっても個人の達成感は得られるが、学校における社会性としての集団学習や活動としての、グループ学習、スポーツ活動での集団学習活動における達成感を得ることはできないと考える。少人数では序列の固定化等により、切磋琢磨する場ができづらい。

委員 ちょうどよい人数は。

教育長 外国では20～25人。日本の40人は多すぎる。5～10人では家の延長となってしまうことや、男女に分かれての集団活動などできない。体育では、団体の柔剣道、バレー、バスケ、野球などできない。

委員 富山中はどこで統合されるのか。

教育長 第3期に中学校の再編を計画しているが、今は予定の中にある。まず、子どもが少ないという問題を解消したい。子どもの人数が減っているという根本的な問題解決のため学校の再編を推進する。

委員 平成19～25年のデータでは、岩井小18人減、平群小14人増、合わせて4人減。他地区と比べて横ばい。他地区のほうが減っている。富山地区は校舎が古い。地区に小中一貫で学校を残して欲しい。

委員 学校建設が統合する要件ということになると、他地区でも学校が古く、老朽化しているから建替えてほしいということになってしまい、学校再編が進まないのではないかと。将来的には、学校施設の安全を確保するために、校舎等の建替えは考えていかななくてはならないと思われる。

しかし、現状の問題は、学年で5人や6人の学級があり、この少人数に係わる問題解決のため、学校の再編を進めることが子供たちには必要であると思う。校舎を建ててもらわなければ統合しないでは、いかなものか。

委員 校舎建設を確約してもらわなければ、協議が進められない。何年後に建てるか確約してほしい。早急に議会で議決し、建替えしてほしい。

オブザーバー 議案として出すまでに1年以上はかかる。

学校再編と学校建設は別というが、10年経てば特例債は使い果たしてしまう。6年後に建てるという約束はできないのか。

委員 岩井小、平群小の校舎耐用年数が10年後には来る。市立学校施設の整

備計画として年次計画を示して欲しい。

ワザンバー 合併特例債は10年後に使えなくなる。合併特例債が使えるうちに学校施設整備計画を立て盛り込まなければ、校舎改築は非常に難しくなるのではないか。

委員 先ほど委員が言ったように、小中一貫にして地区に学校を残すのはどうか。

事務局 本学校再編計画では、旧町村単位を地区として小学校区を設置していますので小学校は必ず地区に設置される計画となっている。中学の配置計画では概ね2分の1としか示していない。中学校はどこに配置となるか決まっていない。

委員 富山以外に、小中学校ともに古い校舎のある地域はどこか。

事務局 三芳地区の三芳小は昭和48年建築、35年経過。三芳中は昭和45年建築、38年経過している。

委員 この地域と三芳だけか。小中とも古いことを地域の人々は心配している。他地区には新しい学校がたくさんある。富山中も建築から38年経っている。地区の拠点となる学校が残るのか不安がある。

教育長 鉄筋コンクリート建物の耐用年数は60年程度と考える。今後、学校整備計画を作成する中で、富山地区の校舎改築を一番最初に計画しなければならないと考える。

しかし、校舎の改築をしなければ統合はできないということでは、学校再編は進まない。

また、小中一貫は校舎を併設するのではなく、小中学校での授業カリキュラムを調整し、スムーズな連携を図るために教員の交流を考えている。

委員 築年数が同じでも、富山地区は活断層があることが違うのではないか。

教育長 国土地理院のデータにもあるとおり、高崎地区の南に断層帯はあるが、県において活断層調査を実施した結果、活断層の可能性は低いという報告が公表されている。

委員 校舎建設には4年、5年かかる。それまでの間、子ども達は極端な少人数の学年の解消にはならない。時期が来たら絶対に校舎建設を実施してもらおうとして、再編問題とは切り離して考えてはどうか。

委員 校舎改築の確約を示していただきたい。確約がないと5年10年経っても改築しないのではないか。

副委員長 校舎改修による補強をしてもらうことでどうなのか。

委員 RC自体が老朽化しているのではないのか。校舎を補強するには多額の費用がかかると思われ、新築したほうが財政的に有効ではないのか。学校

の統合は統合として、極端な小規模を解消し、子ども達によい教育の場を提供するためにも先に進め行く方がよいと思う。

委員 安全な建物で教育を受けて欲しい。校舎建築の確約がもらえれば、多少の間はがまんできる。

委員 新たに建てるまでの耐震性はどうか。

事務局 富山の小学校、中学校の校舎は耐震補強工事が実施されており、耐震性は確保されていると考えている。

委員 どこにどんな学校を建てるかは、議会が決めること。小中一貫学校とするのか、富山地区には小学校しか置かないのか、はっきりさせて議論した方がよい。

小学校の統合により少人数の解消はできるが、新たな課題として、1学年35人、38人となることから、施設やソフトの面の対応が必要である。

委員長 この議題は、現状では合意を得るに至らないため、引き続き検討事項とする。

次に、第2号議案「個別合意事項について」を議題とする。事務局。

事務局 前回配布の会議資料、個別合意事項を説明。

今後の検討課題となることをご了解願いたい。

委員長 説明事項をご承知願いたい。

次に第3号議案「第4回検討委員会の日程について」を議題とする。

事務局より説明。

事務局 次年度、5月中旬以降、各種団体の行事等を把握したなかで、日程調整を行い、開催連絡を行いたい。

委員長 ただ今の説明のとおり、次回会議は5月中旬以降とする。

以上で、議事を終了する。

4、その他

事務局 団体代表委員の方々は、任期改選により委員の変わられに際しまして、次期委員の方への引継ぎをよろしく願います。

次回検討委員会にて校舎施設等の状況見学を提案したい。これについては、新年度の検討委員会会議で提案する。

5、閉会 以上で、第3回富山地区学校再編検討委員会を閉会する。